



湾岸・アラビア半島地域ニュース

イラン：イラン軍による英海軍兵士の拘束（続報）

（4月1-2日付現地報道）

1. 国営テレビ放送における英軍兵士の発言他（2日付ファールス通信及び ISNA）
 - (1) 1日、国営放送2チャンネルは、2名の英軍将校が、事件がイラン領海内で発生したことを確認したと報じた。15名の英軍兵士全ては拘束場所がイラン領海内であることを説明したが、ここ二日間における英国の騒がしい政策の変化に鑑みて、これ以上のインタビュー映像の放送を控えることとなった。
 - (2) 1日、ホセイニ外務報道官は、英国政府が騒がしい政策と非合理的・非技術的立場を変更し、イランの合理的諸要求を実現することにより問題解決プロセスが前進することを希望すると述べた。
2. 英国・イラン間外交文書の交換（1日付 BBC 電子版）
 - (1) 3月30日より英国・イラン間で外交文書の交換が開始された。イラン側文書は比較的穏当なメッセージであり、領海侵犯の説明のみ言及し、特段、謝罪要求はなかった。
 - (2) これに対して英国側より文書が送付され、モッタキ外相は同文書を受け取ったことを認め、「同文書には検討すべき多くのことが含まれていた。しかし、我々は英国の態度の変化を待っている」と述べた。
3. ブッシュ米国大統領の発言（1日付 BBC 電子版）：ブッシュ大統領は1日、キャンプデービットで記者団に対し、「イランの行為は許しがたい。平和的解決を追求する英国のブレア政権を強く支持する。イランは英兵士を帰さねばならない。」と述べた。
4. 在イラン英国大使館に対する抗議デモ（1日付ファールス通信）
 - (1) 1日、イラン領海への侵入と在バスラ・イラン領事館への対応（注：29日、イラク駐留英軍車両が同領事館周辺を包囲し射撃した。）に抗議して、学生数百名が在イラン英国大使館に対し抗議集会を開催した。同集会には統一強化事務所、学生イスラム連盟、独立学生イスラム教会連合、正義を求める学生戦線など様々な学生団体の他、数人の国会議員や一般市民が参加し、英国の敵対的政策に対する怒りを表明した。
 - (2) 治安維持軍が3月30日から英国大使館の警備を強化し、学生達が接近するのを防いだ。学生達は声明を発し、抗議集会を解散したが、一部学生は同大使館への侵入を試み、治安維持軍に阻止された。この間、音響爆弾が同大使館に投げ込まれ、学生達が大使館に向け投石を行った。
5. 英国政府による使節団の派遣（2日付 FT 紙）
 - (1) 1日、英国政府関係者は、英国政府がイランとの緊張緩和のため、外交官及び海軍関係者から成るチームを派遣することを検討していると述べる一方、今回の派遣は将来起こりうる同様の事件の防止が目的であり、謝罪を行うものではないと述べた。
 - (2) 派遣の決定は未だなされておらず、英政府は対話の可能性を示唆したベケット外相のレターの返書を待っている。